

【はじめに】

施設栽培のイチゴにおいて天敵コレマンアブラバチとバンカー植物ポリジを併用して、害虫であるアブラムシの防除効果とその定着、発生消長について調査したので報告する。

【試験方法】

アブラムシに対する密度抑制の効果と天敵の定着、増殖性の確認のためにその天敵であるコレマンアブラバチ^{注1)}を投入した。また、バンカー植物としてポリジを施設内に高さや場所を変えて設置した。

調査については、観察により発生しているアブラムシとマミー^{注2)}についてイチゴとポリジ葉上の頭数を確認することにより行った。また、コレマンアブラバチに寄生する二次寄生蜂についてはマミーを採集して人工気象器内で羽化させた後、コレマンアブラバチ羽化数と二次寄生蜂羽化数により、二次寄生率を算出した。

注 1) アブラムシを直接捕食するのが一次捕食寄生者であるコレマンアブラバチで、これに寄生するのが二次捕食寄生者である。

注 2) 「マミー」とは寄生蜂であるコレマンアブラバチに寄生されたアブラムシそのものがコレマンアブラバチの蛹となった「寄生蛹」のことである。

【試験結果】

「ポリジ」は高位置（地表から2m）よりも、低位置（地表付近）の設置でアブラムシが多く捕捉された（図 1）。また、「ポリジ」にアブラムシが捕捉されて、イチゴへのアブラムシの寄生はほとんど観察されなかった（図 2）。そのため、「ポリジ」は低い位置で栽培することが、アブラムシの捕捉に有効と考えられた。

アブラムシに対するコレマンアブラバチの寄生について、2月8日～4月16日に調査した結果、寄生率は1.2～35.9%，二次寄生率は64.3～80%で推移した。

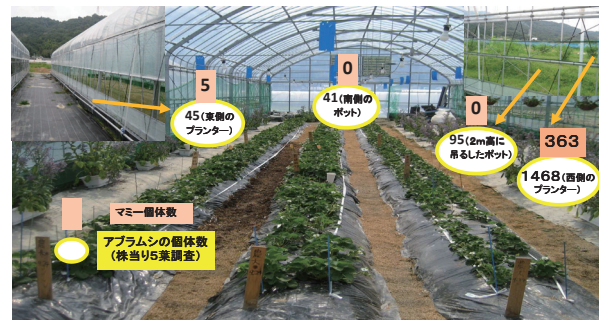


図 1 ポリジ葉当たり虫数(頭)とマミー数
注) 東側はハウスと近接, 西側は小果樹のみで開放状態

二次寄生率が比較的高く推移したことから、天敵の増殖を妨げて防除効果を低下させる可能性があると考えられた。この二次寄生率が高くなった原因としては、防虫ネットが無かったため二次寄生蜂侵入の可能性が考えられた。

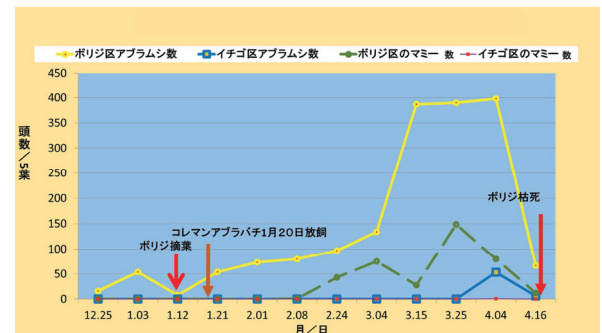


図 2 ポリジ葉当たり虫数(頭)とマミー数

【おわりに】

施設栽培のイチゴでアブラムシに対して天敵「コレマンアブラバチ」を活用した防除についてはバンカー植物「ポリジ」を併用することにより、防除効果の向上が考えられた。そのため、防虫ネットの設置、「ポリジ」の位置と混植等について更に検討すべきであると考えられた。

(平成 27 年度卒業生 生産技術コース オンレイチン)

第 5 号 目次

- 1 頁 露地と施設ナスにおける土着天敵タバコカスミカメの循環利用システムの開発
- 2 頁 テキサスゲートグレーティングによるイノシシ侵入防止効果
- 3 頁 徳島県の農耕地土壌の実態とその変化
- 4 頁 イタリアンライグラス跡地における飼料用トウモロコシの不耕起播種技術
- 5 頁 水稻高温登熟耐性品種「あきさかり」
- 6 頁 県南海域でのワカメ養殖実用化に向けた品種改良の試み
- 7 頁 レンコン腐敗病に対する太陽熱処理技術の普及
- 8 頁 施設栽培のイチゴにおける天敵とバンカー植物のアブラムシ防除効果

徳島県立農林水産総合技術支援センターニュース
第5号

平成28年(2016年)9月

編集・発行 徳島県立農林水産総合技術支援センター
〒779-3233 徳島県名西郡石井町石井字石井1660

TEL (088) 674-1660

FAX (088) 674-3114

<http://www.pref.tokushima.jp/tafftsc/>